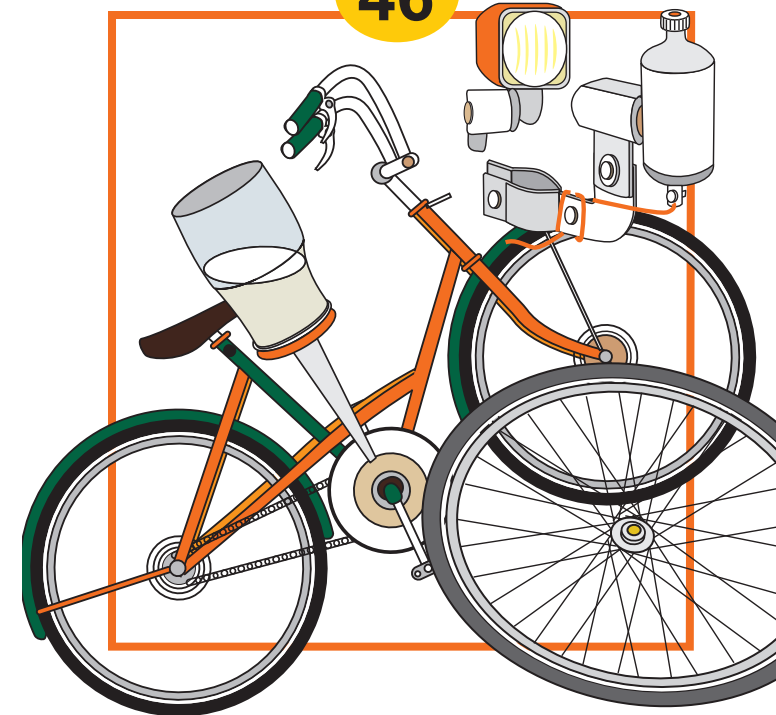


自転車の修理

自分でやってみよう!

セキチュー
How To D.I.Y

46



自転車は近所の買い物から通学、通勤、そしてサイクリングと、暮らしに密着していて、なくてはならないものですが、ついっかりしていると、空気が抜けてしまっていたり、パンクしていたりします。虫ゴムの交換とかパンク修理の方法等、自宅でできる自転車の修理を紹介します。

Do it Yourself & Save

ここがポイント!

自転車の注油ポイント

●ワイヤー

サビると切れやすくなるので、注油していつも油が回っている状態にしておきましょう。先にブレーキ側をはずすと、レバー側は引っかけただけなので、すぐはずれます。注油はワイヤーとアウターのすき間にしてください。



●ブレーキ

ボルトの部分に注油します。ゴムに油がつかないように注意しましょう。

●ディレイラー

変速機のギア部分です。動く部分はすべて注油してください。※油は潤滑防錆剤(CRC5-56等)よりスプレーグリスを使ってください。



●フリーホイールとチェーン

ペダルを逆回転させて、チェーンを回しながらフリーホイールのすき間やチェーンに注油します。

サービスのご案内



配送・ベカン便 切り売り商品 修理



返品・交換 表札・額の受注 スペアキーづくり

●クレジットもご利用になれます。



制作発行 / 株式会社セキチュー 販売促進部
〒370-1201 群馬県高崎市倉賀野町4531-1

TEL.027-345-1111(大代表)

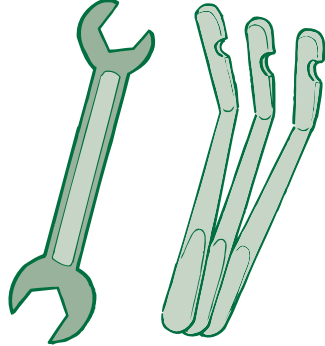
©無断転載は禁止します

用意する物



●パンク修理セット
(パッチゴム・虫ゴム
ゴム系接着剤・サンドペーパー)

●スパナ

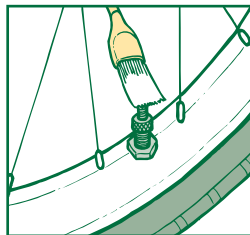


●タイヤレバー

●バケツと水

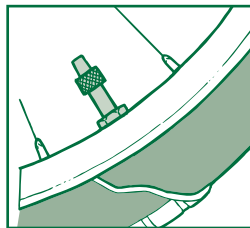
空気が抜ける。

まずバルブの虫ゴムが老朽化しているかどうか確認します。空気を入れ、バルブの部分に石鹸水をつけてみて、泡が出てくるようでしたら虫ゴムが老朽化しています。異常があればパンクしています。

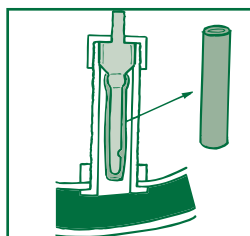


●虫ゴムの交換

1 バルブ部分のナット(ネジ)をはずし、バルブの先端をつまんで引き出します。(バルブ本体を引き抜くと空気が全部抜けてしまうので、必ず先端だけ引き抜くようにしてください)



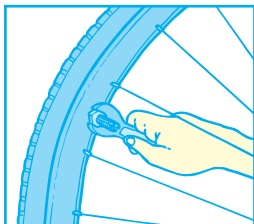
2 古い虫ゴムをとって、新しい虫ゴムをはめてください。虫ゴムがひどく老朽化してバルブについてしまっている場合はバルブごと交換してください。



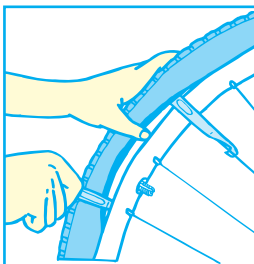
3 バルブを本体に差しこんで、ナットを締め、空気を入れてください。

パンク修理を自分でやってみましょう。

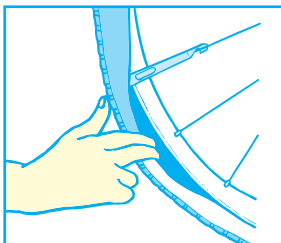
1バルブ部分のナットをはずし、バルブ本体を引き抜きます。そしてリムに止めてあるナットも、スパナでゆるめてから指ではずします。



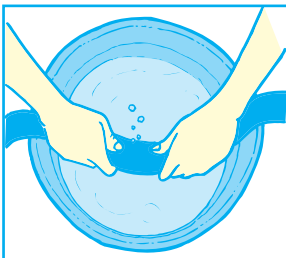
2リムとタイヤの間にタイヤレバーを深く差しこんでタイヤを起こし、タイヤレバーの切れこみ部分をスポークに引っかけてください。(タイヤレバーの代わりにドライバーを使うとチューブやリムに傷をつけるので使わないようにしてください)



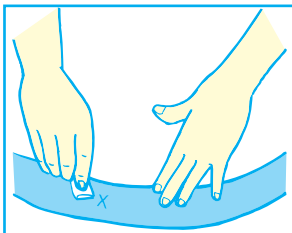
3リムとタイヤの間に指を差しこみ、半周させるとタイヤがはずれます。そうしたらチューブをタイヤの中から、バルブ部分から取り出します。



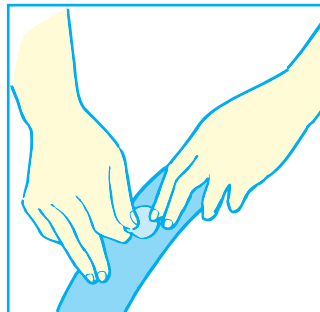
4チューブに空気を多めに入れて水の中に入れます。そしてチューブを順番に水の中に入れていくと、泡が出る場所がありますので、そこがパンクした部分です。



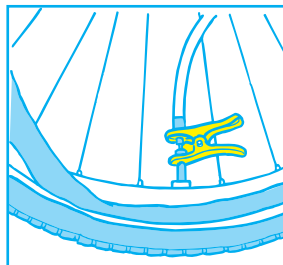
5その部分の水分をよく拭きとり、油性ペンで印をつけた後、空気を抜きます。そしてその周辺を広めにサンドペーパーでこすります。



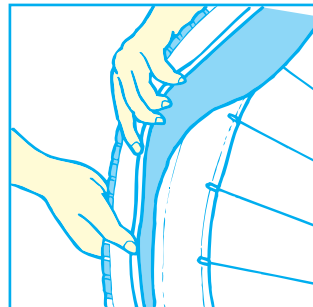
6パンク部分の周辺にゴム系接着剤を薄く塗ります。そしてパッチゴムを適当な幅に切って、約3～5分待ちます。指でさわってもべつつかなくなってからパッチゴムの裏のクロスを取ってパンク部分に貼り、かなづちで軽くたたいて密着させてください。そしてその部分にチョークの粉かベビーパウダーをかけておいてください。そうすると接着剤がはみ出してもチューブがタイヤにくっつきません。



7チューブのバルブ部分をタイヤに入れ、リムにナットで止めます。そしてバルブの本体を差しこんで空気を少し入れます。

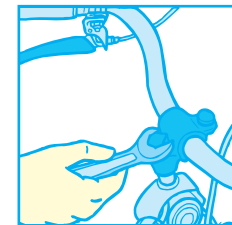


8チューブをタイヤに入れていき、チューブが入ったらタイヤをリムにはめこみます。入りにくいときはタイヤを手のひら全体でつかむようにして、最後に硬くなってからタイヤレバーで押しこむようにするとうまくいきます。最後に空気をいれて完了です。空気圧の目安は指で強く押し試みて、タイヤが少し凹むぐらいが正常です。

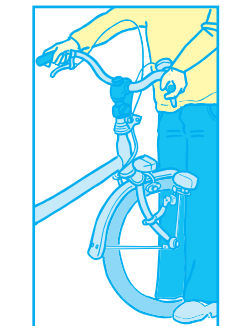


ハンドルが曲がった。

1ハンドルの中央にある引き上げボルトをスパナかボックスレンチでゆるめてください。軸も一緒に上がってくるので、プラスチックハンマーか木づちで軽くボルトのところをたたきます。

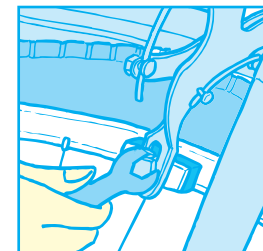


2前輪を前足ではさむようにして、ハンドルを真直ぐに直します。前にかごがついている場合は立ち木や電柱などに前輪の先を当てて力をいれて直してください。ハンドルが正面を向いたら引き上げボルトをしっかり締めなおします。



ブレーキが甘い。

ブレーキのゴムがすり減っていますので、ゴムを取り替えてください。ブレーキからゴムをはさんでいる金具をはずします。最近ほとんど金具つきの取り替えゴムになっているので金具ともに新しいものに取替えれば完了です。



ライトがつかない。

一番多いのは発電器(ダイナモ)の下の配線が切れていることです。よく汚れを歯ブラシなどで落として、つなぎ直してください。

切れていない場合は、電球が電球の接点不良が考えられます。電球を交換してもつかない場合は、電球を押しこめているシンチュウの板を少し起こしてください。

また自転車は車体がマイナスになっています。塗装された面にダイナモが付いていると点きません。

